春の一日

今年の「新津市成人式」が、去る五月三日の憲法記念日に、第一小学校で行なわれました。

この日に式典を行なうようになってから、今年で三年目、気候のよいこの五月に——と変更された式典もあいにくの悪天候でした。でも、はれの成人式とあって、おもいおもいの装いで七百名近くの人たちが参加しました。

式場となった体育館内は和服姿の女性が目立ち、はつらつとした若さ、華やかさでいっぱい。ドライで行動的な戦後っ子たちも、この日ばかりはシトヤカさを競っているようでした。でもネ、年々豪華になる服装が、チョッピリ心配でした。

今年の新成人者は、市内に一、〇〇三人おりますが、市ではこれらのみなさんに記念品などを贈って門出を祝福しました。

メーデー
さつき晴れに労働者の祭典

秋葉グラウンドに勢揃いした参加者

五月一日、労働者の祭典としての昭和四十八年メーデーが、当市でも力強く平穏に繰り広げられました。

この国際的な労働者祭は、日本でも大正九年にはじめてのメーデー集会が開かれてから今年で四十四回行なわれました。

祭典にふさわしく〝さつき晴れ〟に恵まれたこの日秋葉グラウンドに勢揃いした参加者たちは、連帯の高まりなどをアピールしながら、市内の目抜き通りを行進しました。

補導ルームの窓

赤いサニー

青少年補導員　塩練　甫

私の家の前は広い道路なので、かっこうの駐車場になっている。夕方になると、どこからともなく大小の車が道路の両側に並ぶ。最近は大型車がめっきり多くなった。時々ものすごい振動と騒音を立てながら停発車する。自慢の広い道路も、これでは逆に不自由で危険になってしまった。

これから暖かになる。子供達は夕暮遅くまで外で遊ぶようになったら、ひょっとしたら車の陰から飛び出してくるかもしれない。たくさんの車を見ているといやな予感がする。散歩をしながら幼い子供達に、そんな事故の起らぬようにとロで言うだけでは気がすまなくて、車の尻を叩いて話したり、飛び出すかっこうをしてみせたりして、注意を促すのも淋しいことだ。

ところで今日もまだ、家の前に赤いサニー一〇〇〇の乗用車が放置されたままになっている。この車には、前にも後にもナンバープレイトがついていない。だれが見ても不審な車だ。四、五日前にお巡りさんがこの車についての聞き込みに来られた。カーステレオがセットされたままになっており、いかにも持ち主が近所にいそうな感じもするのである。しかしどうもそうではないらしい。盗難車の乗り捨てであろう。もしそうでなければ、まったく非常識、無頓着の持ち主もいたものである。

昨年の十二月の巡視の時であった。Mボーリング場へ行くと施錠のしてない自転車が二台、管理人の話しでは、もう三か月も放置されていて、だれも取りに来ないという。持ち主が忘れたにしては解せない。

駅前にはりっぱな自転車置き場がつくられ、いつみても一ぱいである。ところがこの置き場で盗難が絶えない。高校生のA君が父の転勤のため燕から通学せねばならず、汽車の到着時刻の都合から駅から学校まで自転車に乗らねばならなかった。しかしまあ新しい自転車は、一夜にして盗まれてしまった。なのに隣りの柵には、今も持ち主のない数台の自転車が逆さにつるされ野ざらしになって赤さびている。

物が豊富に出まわり、容易に手に入るようになると、物への愛着心が薄れてしまう。そのよい例が、まちがいなく学校でなくしたはずのサイフや腕時計などの忘れもの、落し物の届け出を、本人がしようとしないことである。発見された落し物の処分に困っているのが実情なのである。盗難もしかり。所有者みずから犯罪の下地をつくっている場合が多いのである。

おしなべて今のわれわれには、生活上の危機感がなさすぎるのではないかと思う。この点は豊かな時代に育っている青少年にあてはめてみたとき、まさに非行発生の根源的な要因になっている。生活に危機感のあることより、ないことの方がよいにきまっている。しかし、物心両面の危機感が生活や文化や人間形成に与える強き一面をわれわれは知っている。あえてそれを求めることによって救われると確信できる情況が増しつつあるように思うが、いかがなものであろう。

（善道町二）

◇　◇　◇

相談は
青少年　補導ルームへ
記念公会堂三階
(二)—〇二二八

マルケン　建設業者登録店　法定防火工事登録店・一級職業訓練指導員

建　鈴木表具店

新津市本町3丁目こせん橋下（神社側）

TEL (02502) 2—1986

開店二十五周年記念に付き四十八年度中粗品進呈致して居ります。

店主